

区のあり方検討委員会報告書（抜粋）

区のあり方の検討における基本的視点

- 持続可能性
- 協働によるまちづくり
- 地域特性の尊重と市の一体性

論点「区の権限強化」

検討課題 区と本庁の役割分担, 職員配置・人材育成, 区長の権限・役割, 区におけるサービス提供体制, 区長意思決定への区民の関与

- 市のこれまでの取組を評価。区の権限強化は当然考えていくべき。
- 公募区長制の運用について検証し, 区長の役割を検討。
- 窓口機能について, IT化などの観点から一層の効率化を検討。
- 区の権限強化に対して区自治協議会の機能は十分か。

論点「区の規模や数」

検討課題 見直しの契機, 検討の進め方, コスト(行政経費), 旧新潟市と合併市町村の違い, 区の規模や数にかかる方向性(現行維持・見直し)

- 区の規模を拡大し効率化を図るべきとの立場と, 広域合併から間もなく現行体制を維持すべきとの立場の双方から意見。
- コストなど, 規模や数にかかる影響や各区の違いを把握・整理した上で議会や市民に示し, 検討を進めることが必要。

論点「総合区制度への対応」

検討課題 導入意義, 導入区域・規模, コスト(行政経費), 事務・権限, 身分の違いによる影響, 区長の任期, 公募区長制との関係, 区間の差

- 現時点では, 現行制度のままでも総合区の理念の実現は可能。一方, 特別職の区長には区民と一体の区政運営が期待できる。
- 導入にあたっては, 意義, 区域・規模の考え方や, コスト, 事務・権限などの影響について明確にすることが必要。

論点「ガバナンス(※)のあり方」 ※長に対する議会のチェック機能

検討課題 区単位の仕組みの必要性, 区常任委員会の設置, 議会以外での議員の役割

- 選出区に対し義務を果たすため, 区単位の仕組みを検討。
- 区常任委は区民と議会が一体となった区政のきっかけになる。
- 議員数が少ない区がある実態を踏まえ, 検討することが必要。
- 議会以外での議員の役割について検討することも考えられる。

区のあり方にかかる課題

短期的課題

中・長期的課題

<区の権限強化に向けた検討の継続>

- ◆ 区と本庁の役割分担, 職員配置・人材育成
- ◆ 区民主体の区政運営(区自治協議会のあり方)

- ◆ 公募区長制の検証, 次期の展開(H28)

- ◇ 区の現状分析
- ◇ 総合区制度の研究
 - 将来人口, 行政資源などの分析
 - 総合区と現行制度との比較

- ◆ 利便性が高く効率的な区役所の確立
 - ICT技術などの活用

- ◆ 区域・規模のあり方・方向性

- ◆ 総合区のあり方・方向性

一体的な検討

- ◆ 区単位の調査・審議等の仕組みの必要性
- ◆ 区常任委員会の設置
- ◆ 議会以外での議員の役割